

『言語研究』査読要領（一部）

査読に際しての留意事項

査読は次の観点からおこなってください。

- ・ 言語研究の発展にどの程度貢献するか。
- ・ 主張に新規性・オリジナリティが認められるか。
- ・ 先行研究に対する言及が適切におこなわれているか。
- ・ 主張に対して適切な証拠が提示されているか。
- ・ 論証が論理的かつ明快であるか。
- ・ 適切な分量の中で議論が完結しているか。

「査読結果」は次のA～Dから1つを選択してください。編集委員会は2名（第三者査読が入った場合は3名）の査読者の査読結果とコメントにもとづき、投稿論文がA～Dのいずれに該当するかを最終的に決定し、「採否決定後の対応」のように対応します。

判定	基準	採否決定後の対応
A 採用	修正なし、あるいはごく軽微な修正のみで掲載可能。	・ 期限を決めて、投稿者に入稿用の原稿と修正報告の提出を指示する。
B 改訂して再提出	掲載可能な内容と判断されるが、 <u>2か月程度</u> で修正可能な点を修正した上で掲載することが必要。	・ 期限を決めて、投稿者に改訂版と修正報告の提出を指示する。 ・ 修正確認は編集委員会がおこなうが、修正の内容と程度によっては、査読者にも確認を依頼することもある。
C 書き直し再投稿	現段階での掲載は難しいが、評価できる部分はあり、 <u>6か月程度</u> の時間をかけて改訂すれば、「A 採用」または「B 改訂して再提出」となることが見込まれる。	・ 期限を決めて、投稿者に改訂版と修正報告の提出を求める。 ・ 改訂期間中は『言語研究』に投稿中であり、他への投稿はできない。 ・ 再投稿があった場合は、原則として同じ査読者に再査読を依頼する。 ・ 再査読の判定は「A 採用」、「B 改訂して再提出」、「D 不採用」のいずれかとし、「C 書き直し再投稿」はつけない。
D 不採用	基本的な部分で問題があり、 <u>6か月程度</u> の時間をかけて改訂しても、「A 採用」または「B 改訂して再提出」となる見込みがない。	・ 審査を終了し、投稿者に不採用通知をおこなう。 ・ 同一テーマで新規に投稿しなおすことは認められない。

論文の採否判定は、原則として次のようにおこないます。査読者のコメントの内容を十分吟味したうえで、編集委員会の判断で原則とは異なる採否判定をおこなうこともあります。第三者査読が入った場合は、3名の査読者のコメントにもとづいて判断します。

査読者の判定	採否
A, A	A
A, B	B
A, C	第三者査読
A, D	第三者査読
B, B	B
B, C	C
B, D	第三者査読
C, C	C
C, D	D
D, D	D

カテゴリーを変更（「論文」を「フォーラム」に変更、あるいは「書評論文」を「書評・紹介」に変更）して大幅に書き直せば掲載に至る可能性が高いと判断される場合は、判定は「C 書き直し再投稿」とし、「編集委員へのコメント」に「カテゴリーを変更すれば掲載に至る可能性あり」ということを記入してください。編集委員会でカテゴリーの変更が妥当と判断した場合は、投稿者および査読者にその旨を通知します。

（参考）投稿論文のカテゴリー

- a. 論文： 完成した研究論文。図、表、文献等を含め、邦文論文・欧文論文ともに、40 頁以内（40 頁は、邦文の場合、400 字詰原稿用紙 90 枚程度。欧文の場合、15,000 語程度に相当）。
- b. フォーラム： a のカテゴリーに属さない小論文（萌芽的な論考、他者の論考に対する批判的考察も含む）。15 頁以内（15 頁は、邦文の場合、400 字詰原稿用紙 34 枚程度。欧文の場合、5,600 語程度に相当）。
- c. 書評論文： 他者の出版物に対する批判的考察で独自の提言を含む論文。20 頁以内（20 頁は、邦文の場合、400 字詰原稿用紙 45 枚程度。欧文の場合、7,500 語程度に相当）。
- d. 書評・紹介： 他者の出版物に対する短評。10 頁以内（10 頁は、邦文の場合、400 字詰原稿用紙 22 枚程度。欧文の場合、3,700 語程度に相当）。